

市民発!

広報サポーターだより

農業つてすばらしい！若き農業人の挑戦

こんにちは。広報サポーターの大谷敦子です。田原市は、農業がとても盛んで平成17年の農業産出額が、日本一です。私は、他県から移り住んで3年になりますが、田原のキャベツ畑やブロッコリー畑などの風景が大好きです。（もちろん、おいしい野菜を食べるのも大好き！）

私は、地元の食材を多く扱う仕事をしていますので、農家の方のお話を聞く機会が多々あります。農家の皆さんは、自分の仕事に誇りと自信を持っていて、さまざまな取り組みをされています。今回は、私が興味を持った若き農業人をご紹介します。

大谷敦子

和地町で農業を営む藤井英夫さん。3年前に会社を設立し、主にミニトマトとキャベツを栽培しています。野菜を栽培し販売するだけでなく、農業指導や就農支援、遊休農地の活用、中国での農業指導などを行っています。



1 農業指導・就農支援

就農希望の方へ、農業指導や働きながら就農の自立支援を行っています。仕事以外にも、畑を借りて他の野菜の栽培に挑戦するなど、やる気があれば農業をとことん勉強することができます。現在は、20歳代から40歳代までの13名が、農業のスペシャリストを目指して一生懸命働いているそうです。



▲ミニトマト栽培



▲設楽町の高原キャベツ畑

3 中国での農業指導

日本だけでなく、中国でもミニトマト栽培を行っています。現地で直接指導をしたり、インターネットでも経過観察や指導をしたりしています。また、中国からの研修生も受け入れています。



▲中国の農場での指導



▲中国からの研修生たち

2 遊休農地の有効利用

経営面積は、畑や施設を全部合わせると約11ha。この土地は、担い手がいなかったため使われなくなった畑、いわゆる遊休農地を買収したり、借りたりして増やしているそうです。畑は設楽町にもあり、就農希望の方たちが、夏期だけ共同生活をしながら、高原キャベツを栽培しています。